

男女共同参画誌ハンド&ハンド

さいさい 彩西ナーシングケア

彩西療養通所介護鳩山管理者：関口良子さん

彩西訪問看護ステーション管理者：羽入田勝美さん

感謝の気持ちを忘れない



施設長・代表理事

関口良子さん

以前は埼玉医科大学病院（毛呂山町）に勤めていた関口良子さん（鹿下）。「まだまだ私なりのやり方で社会貢献ができる」という思いで、平成19年、仲間5人とともに、「NPO法人彩西ナーシングケア」を設立しました。

当時、関口さんは55歳。その頃のことについて「子育てはひと段落していました。家族は仕事優先でやってきた私のことを一番理解してくれています。心配もあつた

かもしれませんが、見守ってくれました。また、前の職場の仲間や先生方も応援してくれて、とても励みになりました。このように私を支えてくださる皆さんにはとても感謝しています。」と話してくれました。

開設後まもなく施設長・代表理事となった関口さん。病院での経験もあつたため、「不安よりも期待感の方が大きかったですね。」とあつさり。「代表理事としての

仕事は勉強させてもらっているという気持ちで臨んでいます。施設の代表者が集まる会議等も、参加・経験できることがむしろありがたいです。」と笑顔で話します。

「当施設には経験豊富な職員が多く、一人一人が責任感を持って働いてくれています。一応肩書はありますが、利用者のみなさんに接するときは、上司も部下もなく、職員全員がワンチームとなって頑張っています。」

現在の課題は後継者育成とのこと。「当施設は男性も女性も、そしてシニアの方も多く働く『老若男女共同参画』の職場です。リーダーも性別は関係ありません。全員が安心して明るく働ける健全経営の職場を創れる若い世代の職員を育てていきたいです。」

関口さん個人の目標を聞くと「二日一日を大切に楽しく過ごし、長く健康でいることです。今は人生百年時代。家族との時間も大切に、できる範囲で社会にも貢献させていたいただきたいと思っています。」と話してくれました。

利用者からの信頼をやりがいに

関口さんと同様に埼玉医科大学病院で働いていた羽入田勝美さん（越生東一）。「NPO法人彩西ナースィングケア」で働く関口さんから声をかけていただいたことをきっかけに、当施設で働き始めました。「私は現在訪問看護の管理者として働いています。この仕事の大変なことは、24時間365日、利用者のみなさんとの連絡ツールとなる携帯電話を手放せないこと。寝るときも枕元に置いておき、連絡が入ると、すぐに駆け付けなければなりません。人の命がかかっているので、基本的には仕事を忘れて遠くに出かけることもできません。以前、大雪の日に連絡が入り、道路にも雪が積もっている中、利用者さんの家を訪問したこともありましたが、これは本当に大変でしたね。ですが、それでもこの仕事を続けるのは、私を必要としてくれている利用者のみなさんがいるからです。中には家

族の言うことは聞かないけれど、私たちの話は聞いてくれるという方もいます。「それだけ信頼してくれているんだな」と考えると期待にこたえられるように頑張ろうと思えるんです。

この仕事は、周りの理解なしにはやっていけません。特に子どもには大きな負担をかけていると思います。先日、子どもから「足が痛いから医者に診てもらいたい」と言われましたが、仕事を優先し

てしまい、なかなか医者に連れていくことができませんでした。

家事と仕事の両立は大変だと感じることはよくありますが、周りの人たちの理解があるからこそ続けられているのだと思っ



彩西訪問看護ステーション管理者
はにゆうだ
羽入田勝美さん

関口さんも言うように、今は人生百年時代。高齢者も増えて、訪問看護の役割も大きくなってきていると思います。今後はみなさんが必要としてくれていることに感謝して、利用者のみなさんの家族や地域の方と一緒に、一人でも多くの人の助けになれば良いと思います。

「今後もここで働く皆さんと協力して頑張っていきたいです。」



特定非営利活動法人
彩西ナーシングケア